

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年2月20日】第156号



入試報告会

2月15日(水)、幼児教育に携わる皆様を対象とした「2023年度入試報告会(オンライン)」をオンラインで行いました。60組以上の幼児教室・教育機関ほかにご出席いただき、昨秋の入試を振り返るとともに、本校の入学試験の特徴や主旨についてご説明いたしました。

私立小学校の入学試験は、受験生とご家族にとっては大きな挑戦となるかと思えます。しかし、大切なことは合格がゴールではなく、将来に向かっての新たなスタートであるということです。ご家庭での躰や家庭学習については、小学校入学後も引き続き、保護者様の時間とエネルギーを注いでいただきたいと願っていることも、お話をさせていただきました。

茶道を楽しむ

2月14日(火)は3年生が、16日(木)は2年生が、東京農業大学農友会茶道部の学生さんたちと、部長の東京農業大学造園科学科 教授 服部勉先生にご指導を受け、稲花タイム「茶道を楽しむ」の授業を受けました。

本校には和室があり、茶道の道具一式があり、茶道用のお茶碗は1学級36名分以上が用意されています。昨年に続き今年も、お菓子(両口屋是清 二人静)とお茶(京都 東茶園さみどり)を味わいます。床の間には榎本武揚先生の漢詩のお軸を飾りました。

昨年、すでに茶道体験をした3年生。今年は、自分たちでお茶を点て、和室に正座して待つ友だちに味わってもらいました。帛紗捌きも昨年よりスムーズにできていました。いつもは元気いっばいな3年生が、落ち着いた表情でお茶を味わっていることを見るのはうれしいことです。昨年の稲花タイムの後、お茶を習ったり、体験会に行ったりした子どももいたようです。

2年生は初めてのお茶です。畳の縁を踏まないように歩き、背中を伸ばして正座するところからスタートしました。水屋とした隣接する家庭科室で、先生方や学生さんたちが陰点てくださったお茶を、味わうのです。昨年と同様、落ち着いたきのある子どもと落ち着いたきのない子どもの違いが見えた場面もありました。お茶を味わったあとは、茶筌、茶杓、柄杓、茶箱、炭、白炭、水指、建水、さらに服部先生がお持ちくださった紅茶、緑茶、ウーロン茶の茶葉、チャの枝などを観察しました。

授業の終わりには2年生も3年生も、服部先生から「認定証 稲花小学校 茶道博士」を授与していただきました。お茶を初めて味わった2年生の修了証には茶の実2つが、自分でお茶を点てることのできた3年生の修了証には茶の実3つが描かれていました。

実験したい!

1年生の稲花タイム、2月17日(金)は「新米・古米」と題した授業を行いました。どのようなお米を新米というのか、お米は古くなるとどうなるかを考えました。その後、2022年産のお米と2014年産のお米を配布し、見比べどちらが古いかを考えました。そしてその予想が当たっている

かどうか、MB 液という酸性になると緑から黄色に変色する試薬の入ったチューブ 2 本にそれぞれのお米を入れて、色の変化を調べる実験を行いました。2014 年産のお米はさすがに酸化が進んでおり、MB 液に入れるとすぐに黄色く変化します。その変化に、子どもたちの歓声があがりました。指示通りの手順で進めること、チューブの蓋をきちんと開閉すること、試薬が入っているので目の位置より下にチューブを持って観察すること、2 本のチューブを取り違えないようにすることなど、注意深さが要求される実験でしたが、1 組も 2 組も失敗する子どもがいなかったのは、さすがでした。また、古米の胚芽のところがオレンジ色になっていることに気づいた子どももいて、考察はさらに深まりました。

最後に、800 種類以上あるお米の品種について習いました。「森のくまさん」「ちゅらひかり」などの名前が人気な中、「青天の霹靂」の意味にも関心が集まり、説明を真剣に聞いていました。お家ではどこの県のなんという品種のお米を食べているか、子どもたちが質問をしたときには、お米の袋を見せていただければと思います。スーパーマーケットでもお米の売り場を一緒に見ると、さらに話がはずむことでしょう。

オーストラリア短期留学説明会

2 月 17 日(金)18 時より、オーストラリア短期留学に参加予定の 4 年生の保護者様 33 組を対象に、オンラインでの説明会を行いました。2 回目の今回は、旅行のしおりを利用して、集合場所や日程、持ち物、生活上の注意など、より具体的な説明を行いました。これからはご家庭で保護者と子どもたちが、持ち物やマナーなどについて、自分自身の取り組むべきこととして考え、準備を進めていくことも願っています。

東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子